

発刊にあたって



財団法人日本特産農作物種苗協会

理事長 桑名 清文

財団法人日本特産農作物種苗協会は、「特産農作物について、原種苗の生産配布等優良種苗の安定的な供給を確保するための事業を行うことにより、特産農作物の生産の振興及び関連加工業の健全な発展に寄与することを目的」として昭和43年に設立されております。

もとより種苗は、農業生産の最も基礎的かつ不可欠な資材でありますことから、優良な種苗の生産・流通は農業生産対策上きわめて重要なものとして位置づけられ、特に食糧供給上重要な作物や、増殖率や病虫害などから種苗生産が難しく安価かつ安定的に供給する必要がある作物の原原種・原種の生産・配布については、都道府県など公的機関によって担われてきているところであります。

当協会の主な業務は、当協会の農場において行っている豆類の原原種及び原種、麦類の原種、馬鈴薯の原種の生産及び配布ですが、これは、本来公的機関が行う原原種・原種増殖事業について、当協会がそれらの生産に適した農場や栽培技術を有する者として委託を受け実施しているものであり、これまで地域農業の振興にいささかなりともお役に立ってきたものと自負しております。

一方、当協会の名称でもあります特産農作物について見ますと、農業生産の大型化、広域化等の中で、地域の風土に根ざした地域特産農作物の生産は縮小し、産地も減少してきております。しかし、わが国の南北に長く多様な自然条件下におい

て、それぞれの地域風土に根ざした地域特産農作物の振興は、地域農業の発展とともに、関連加工業の発展、国土の土地利用の向上、不作付け地等の解消の上からも重要なことでありましょうし、また、近年、食の多様化、安全安心への関心の高まり、地産地消の動き等から、地域特産農産物に対する評価の見直しの動きも見られております。

このようなことから、今年設立40周年を迎える当協会業務の新たな展開の一つとして、特産農作物に関する品種、種苗、生産技術、産地情報を主体とした情報誌「特産種苗」を発刊し、特産農作物の生産性及び品質の向上等による生産の拡大、産地の振興に寄与したいと考えました。今日インターネットなどを介して無数の情報が飛び交ってはおりますが、有益な情報を選別し入手することは思いのほか簡単ではなく、また、そのような有益な情報を蓄積することの重要性は今日においても大きく、本誌のような冊子の存在意義も決して少なくないと考えます。

創刊号は雑豆を特集しましたが、今後、特産農作物についての色々な切り口での情報を掲載していきたいと考えておりますので、ご意見などいただければありがたく、また、本誌を皆様の情報発信の場としてもご活用いただければと思っております。

本小冊子が、わが国の特産農作物の振興のため何らかのお役にできれば幸甚に存じます。